

石見神楽の魅力を伝える高津神楽社中

島根県西部の伝統芸能である「石見神楽」の良さを多くの方に伝えたいと、明治25年10月隅村青年有志神楽連発足。大正14年10月に名称を丸山座に変更し活動。

その後、後継者不足による出演一時停止など、メンバー減少により様々な困難があった中で、藤原澄男氏の自分で旗揚げをしたいという強い思いから、昭和48年4月に高津神楽社中を創設されました。

現在は、2代目である藤原博美氏が主となって団員28名で活動しており、様々な形で「石見神楽」の素晴らしさを発信し続けています。

人々を魅了する石見神楽

石見神楽は、島根県西部の石見地方に古くから伝わる伝統芸能です。大太鼓、小太鼓、手拍子、笛を用いた活気ある囃子に合わせて舞い、昔から春・秋の神社での奉納や祭などのイベントで演じられてきました。

石見神楽は、日本国内だけでなく海外でも公演しており、子どもから大人まで幅広い世代に人気があります。高津神楽社中は、石見神楽を初めて海外で公演するなど、益田市外での公演も積極的に行っています。

〈一部抜粋〉

- ・アメリカ公演～アンカレッジ・サンフランシスコ～
- ・台湾公演～台北市アジア伝統芸能祭～
- ・和歌山県印南町～令和を祝う「石見神楽」共演会
- ・岡山県倉敷市芸術文化ホール など



豪華絢爛な衣裳

石見神楽の衣装は、金糸・銀糸で昇り竜や唐獅子、鶴などの刺繍が施されており、神と悪でモチーフに違いがあります。また、舞台上でライトが当たる時に映えるよう、メッキされた銅板やガラス玉等を生地に一針ずつ縫い込んでいくなどの工夫がされています。



石見神楽の衣裳はとても重い！数十キロ近く重さがあり、肩にずっしりと食い込むほどです。

子ども一人分程の重さを着こんであの激しい舞を舞っています。



表情豊かなお面

お面は、石州和紙を貼り重ねて作られています。舞用は飾り用よりも何十枚も和紙を貼り重ねることによって、軽くて丈夫なお面となり、激しい舞を可能にしています。社中によってお面に違いがあり、表情豊かなお面はそれぞれの社中の「顔」となっています。



昔は、石州和紙ではなく木を彫ってつくられていました。右の写真は高津神楽社中が保有する木製のお面です。



高津神楽社中のイチオシ！

～柿本人麿を題材とした演目「石見野」～

これまで様々な場所で石見神楽を公演してきた中で、「益田市ってどこ？」という声を多く聞いてきました。はじめた当初は、石見神楽の演目はそのほとんどが九州を題材としたものでした。ご当地の演目をつくれれば、石見神楽をとおして益田を宣伝できるのではという思いからできたのが柿本人麿を題材とした演目「石見野」です。

演目をとおして、益田の歴史や資源・良さを県内外に伝えていきます。



～子ども神楽！～

メンバー減少による様々な困難を経験してきた高津神楽社中。その経験から、後継者を育てるには子どもの頃から石見神楽に触れる機会や体験が大切だと気づき、いち早く子ども神楽を開始しました。

高津神楽社中が神楽を行う中で一番大事にしているのは、舞台上に上がること。何十回練習したとしても、舞台上で舞うのとは全然違います。舞うチャンスがあればあるほど、舞台上に上がって人前で舞えば舞うほど、達成感や感動を実感できます。

次世代を担う子ども達と一緒に盛り上げていきます！



高津神楽社中の今後の目標！

市内の子ども達に石見神楽の魅力を伝える！

市内の小学校を中心に、石見神楽とは何なのか子ども達に知ってもらえるような取組みがしたいと考えており、次世代を担う子ども達に石見神楽に関心をもってもらうことで、地域への愛着を持ってもらいたい、神楽を舞う喜びを知ってもらいたいと思っています。

【問合せ先】

高津神楽社中
練習日：毎週火曜日・金曜日の夜7時半
主に金曜日は子ども神楽の指導場
場所：益田市高津8丁目1-24
練習は岩見建設2階で行っています。
Tel/Fax : 0856-22-1271
facebook : <https://m.facebook/takatukagura/>

【記事を見てくれた方へ一言】

高津神楽社中は、昭和48年に創設してから長年、石見神楽の発展に貢献してきました。益田市民が誇りに思えるものを今後も演じていきます。石見神楽に興味のある方、一緒に盛り上げていきませんか。